

## 読売新聞 きょう（8月31日）のイチ押し

### 1面 TICAD閉幕 アフリカ官民投資促進

横浜市で開かれていた第7回アフリカ開発会議（TICAD）が閉幕しました。採択された「横浜宣言」には、質の高いインフラ投資で官民を促進し、アフリカの発展に協力する方針を示しました。

- ★ アフリカへの影響力を増大させている中国を意識した内容です。投資でがんじがらめにする「債務のわな」へのけん制でもあります。しかし、投資を各国に競わせて好条件を引き出そうとする国もありました。
- ★ 中国依存の強い一部の国が、対中国批判に難色を示したため、宣言の言葉、表現が弱められた状況も。アフリカはなかなかしたたかです。

### 社会面 ラピート台車36基交換へ

関西空港と大阪・難波を結ぶ特急「ラピート」の台車に亀裂が見つかった問題を受け、南海電鉄が問題発覚後、初の記者会見を開きました。

- ★ 今後、モーターの付いたラピートの台車全36基をすべて交換する方針を明らかにしました。
- ★ 亀裂原因については国の運輸安全委員会の調査に協力する、と述べるにとどまりました。識者は「台車の亀裂が頻繁に起きることはないので、交換するなら設計し直したものに替えるべき」と指摘しています。

### 関西経済面 広論 データ 産学発展の礎に

滋賀大は2017年、日本初のデータサイエンス（DS）に特化した学部を彦根市に開設しました。インターネットでのデータの収集・分析などを中心に学ぶことができ、市内の企業とも共同研究しています。将来は、米のシリコンバレーならぬ「彦根バレー」と呼ばれる日があるかも。学部長、竹村彰通（あきみち）さんの夢は壮大です。

#### 他紙と比べて

「スポーツBiz」（1面）は、来月20日に開幕するラグビーW杯を取り上げています。W杯の経済効果は右肩上がりです。アジア初の開催で、さらなる黒字を稼ぎ出せるのか。楯円球に集まる人々とビジネスの周辺に迫ります。